

ノヤマ通信

vol.5 (2022.神無月)



森のようちえんヒュッテ

【9月に行った活動：5日宇和運動公園、8日たこやき島、15日山の基地、22日桂川溪谷、26日中山池自然公園、29日歴博】

●活動を見つめるコラム

「木登りなどの補助の仕方を考える」

ヒュッテの活動をするときの大人のあり方として、私たちが目指しているのが“過不足のない関わり”です。子どもたちの主体性を大事にしたいので、大人が手や口を出すのはできるだけ控えるようにする一方で、まったく関わらずに子どもたちを放置するのもおかしい。その状況ごとに、どのように関わるのが適切なかな〜と絶えず心を揺らしながら見守っています。

例えば、子どもが木や高い所に登ろうとしているけれど、どうしても一人では登れそうにないとき、大人はどう関わるのが良いのでしょうか？



もちろん子どもの発達段階によっても違います。私は補助をする場合、基本的に子どものお尻を押し上げたり引っ張り上げたり、といったことはしないで、「ここに足場があれば自分で上がれそうだな」という場所に自分の足や手を置いて踏ませることが多いです。この方法が、比較的子どもの気持ちを損なわない関わりかな、と考えるので。（たまに子どもに「手伝わんといて！」と言われることもあります 😊）

関わり方に絶対的な正解というものはないので、“過不足のない関わり”という目標にゴールはありません。保護者の方と関わり方についていろいろな意見を交わしながら運営を進めていく、そういうプロセスを大切にできたらと思っています。（ゆ）



▲9/29 森のようちえん@歴史文化博物館（西予市宇和町）

👤👤 山の基地

【9月に行った活動：11日開放日】

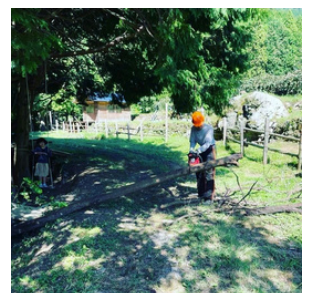
●久しぶりの開放日となった9/11。バッタやカマキリなどの虫をとったり、林ゾーンの遊具で遊んだりする子どもたちの声が山に響きました。

ウッドデッキを作成したときの木材の残りをを使って、キッズハウス作りもスタートしました。作業していると、子どもたちが寄ってきたので、トンカチを使ってお手伝いをしてもらいました。



●草がよく伸びる時期だったので10日に1回くらい草刈りをしています。草刈りをしていると、カマキリをよく見かけるようになりました。

台風14号🌀が通過したあと見回りに行くと、ビワの木が林道の方に倒れていたのので、チェーンソーで切って撤去しました。それ以外は大きな被害はありませんでした。



✿✿ その他の活動

●9/16上松葉奥池ビオトープの管理

ひと月ぶりくらいに訪れると、草がずいぶん伸びていました。市役所の担当者に聞くと、7月末に年1回の草刈りを終えたとのこと。多様な生きものがすめる生息環境を維持していくには、年数回の草刈りが必要なので、今後はできる範囲で私たちが草刈りを行っていくつもりです。



ハイイロチョッキリ

ドングリに穴をあけて卵を産み、枝ごと切り落とすゾウムシ。葉付きのドングリが地面に落ちていたら、大体こいつの仕業です。



ガマ

池の水辺に生える大型の植物。ソーセージみたいな穂は、乾燥すると綿毛がモクモクと湧き出てきます。

●9/25宇和島で海岸清掃イベントに参加

宇和島市津島町近家の海岸で行われた海岸清掃のイベント（主催：なんよTAC）に参加しました。今後、西予市内（たこやき島など）でも同様の活動ができればいいな、と思いました。



●四国西予ジオパークのフリーマガジン『だいちのめ』の編集

原稿の執筆や校正作業などパソコンに向き合う時間が多かったです。10月中旬に発行予定です！

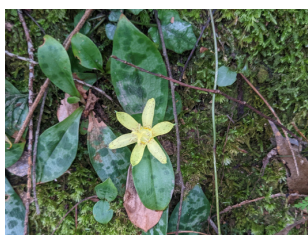
🌱 いきもの情報

活動の中で出会った生きものたちを紹介します。



オヤビッチャ

夏から秋にかけて潮だまりで幼魚が見られるようです。縞模様がかわいらしかったです。



チャボホトトギス

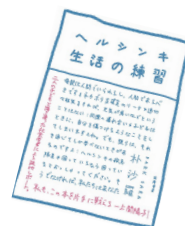
山の林床に生えるユリ科の多年草。愛媛県内では絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類）に指定されています。

📖 おすすめの本

『ヘルシンキ生活の練習』という本を読みました。社会学者の朴沙羅さんが、6歳と2歳の子を連れてフィンランドに渡り、生活の中で経験した出来事が綴られています。大きく印象に残ったことが2つ。

「適切な服装をすれば、天気が悪いなどということはない（同僚の連れ合い）」フィンランドの保育園では、雨が降ろうが氷点下だろうが、地面が凍っていようが風が吹いていようが、ほぼ必ず外で遊ぶそうです。だから持ちものも多い。日本の園でも必要そうな持ち物に加えて、カップ上下、スキーウェアのようなもの、長靴、雪靴も必要らしい。小学校での宿題の1つに「気候に合わせた服装をする」というのもあったとか。森のようちえんの活動にも通じている考え方だなと思いました。

「これらのスキルはすべて、一歳から死ぬまで練習できることですよ（保育園の先生）」個人面談の時に、See the Good!という人間に共通する26個の強みカード（例えば「我慢強い」、「思いやりがある」、「好奇心が強い」、「協調性がある」など）が机に並べられていたそうです。通常なら性格や才能などと結び付けられてしまいそうな事柄が「スキル」と呼ばれ、足りないスキルは練習する機会を増やせばいいと考えます。「いいところ」と「悪いところ」ではなく、「練習が足りていること」と「足りていないこと」があるだけ。そんな考え方の違いがとても新鮮でした。大人も練習しないといけないことがいっぱい^^; (ち)



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

✉ noyama.company@gmail.com